

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第51週 (12/18-12/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		51週	50週	49週	48週
上段:患者数	小児科	18	18	18	18
下段:定点当たりの患者数	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県
		注意報	12/18-12/24	12/11-12/17	12/4-12/10	11/27-12/3	12/11-12/17
			51週	50週	49週	48週	50週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	1 0.06	1 0.06	3 0.17	53 0.39
	咽頭結膜熱	→	12 0.67	12 0.67	4 0.22	7 0.39	128 0.95
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		36 2.00	36 2.00	51 2.83	46 2.56	491 3.64
	感染性胃腸炎		187 10.39	233 12.94	179 9.94	149 8.28	1,253 9.28
	水痘		4 0.22	14 0.78	6 0.33	14 0.78	102 0.76
	手足口病		19 1.06	15 0.83	21 1.17	23 1.28	160 1.19
	伝染性紅斑		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	7 0.05
	突発性発しん		7 0.39	7 0.39	8 0.44	4 0.22	52 0.39
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ		1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.06	6 0.04
	流行性耳下腺炎		2 0.11	3 0.17	4 0.22	4 0.22	22 0.16
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	213 7.61	136 4.86	64 2.29	57 2.04	1,627 7.57
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	0 0.00	2 0.40	35 1.00
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	E型肝炎	女性	50歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	50歳代	画像診断	つつが虫病	男性	70歳代	血清抗体の検出
結核	男性	50歳代	IGRA検査	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	90歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	60歳代	画像診断	-	-	-	-

・第51週は、結核4件(210)、E型肝炎1件(7)、つつが虫病1件(2)、梅毒2件(32)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

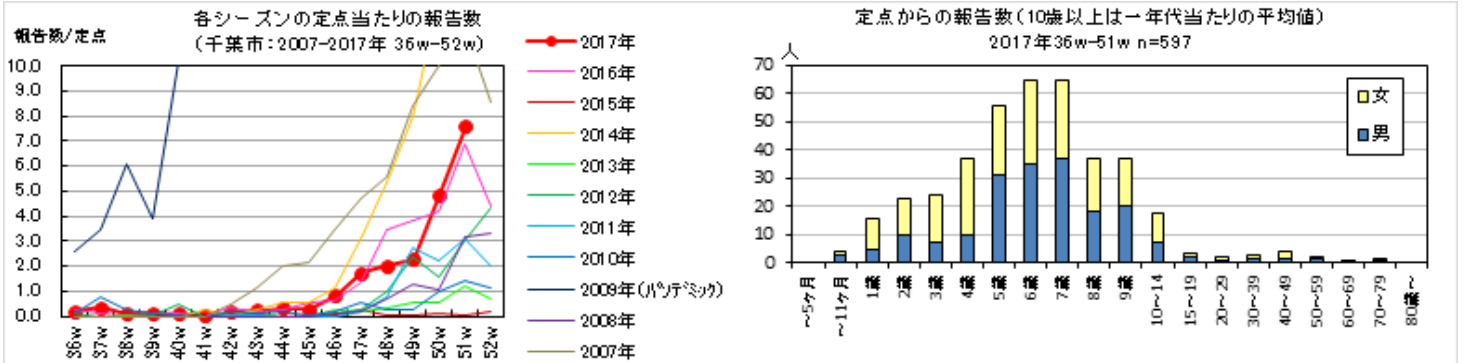
定点当たり報告数 第51週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週から横ばいで0.67のままとなった。過去10年の同時期と比べると多い。
<インフルエンザ> 前週より増加し7.61となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

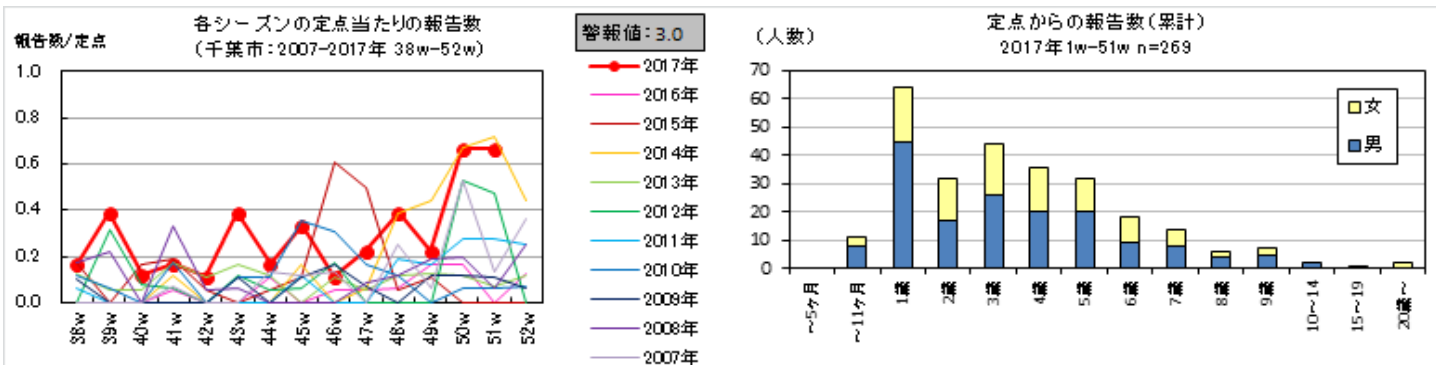
全国レベルの第50週は、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多となっています。都道府県別では長崎県、岡山県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じレベルとなっています。千葉市の2017年第51週は前週より増加し7.61となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、中央区(11.2/定点)で流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回り最多で、一年代あたりでは同区の8歳で最も多く発生報告がありました。その他、若葉区でも流行発生注意報基準値を上回っています。今シーズンである2017年第36週から第51週までの累積報告数(n=597)によると、性別では男性が46.2%(276名)、女性が53.8%(321名)で、年齢階級別では6歳及び7歳(共に10.9%:65名)、5歳(9.4%:56名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の78.6%、10歳未満は全体の61.0%となっています。



	第51週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過	-	-	注意報	-	-	注意報	-	-
過去10年の同時期との比較	多め	多め	やや多め	多い	多め	やや多め	ほぼ同じ	やや少なめ
昨年の同時期との比較	多い	多い	少ない	多い	少ない	多い	多い	少ない

<咽頭結膜熱>

全国レベルは第39週から過去10年の同期と比べると最多のまま推移しており、第50週も同様となっています。都道府県別では富山県、新潟県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2017年第51週は前週より横這いで0.67のままとなり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第51週までの累積報告数(n=269)によると、性別では男性が61.0%(164名)、女性が39.0%(105名)で、年齢階級別では1歳(23.8%:64名)、3歳(16.4%:44名)、4歳(13.4%:36名)の順に多くなっています。



<梅毒>

全国レベルの第50週現在の発生届累積数は5534件で、過去10年の同時期と比べると最多であった昨年の約1.3倍となっています。都道府県別では東京都、大阪府、愛知県の前で多く報告されています。千葉県は全国第9位の多さとなっています。千葉市は第51週に2件の発生届があり累積数が32件となり、過去10年と比べて最多となっています。内訳は、男女別では男性が59.4%(19名)、女性が40.6%(13名)で、年齢階級別では20歳代(43.8%:14名)、40歳代(15.6%:5名)、60歳代(12.5%:4名)の順で多くなっています。病型は、早期顕症梅毒Ⅰ期が37.5%(12名)、早期顕症梅毒Ⅱ期が43.8%(14名)、晩期顕症梅毒が6.3%(2名)、無症状病原体保有が12.5%(4名)となっており、感染経路は、性的接触が90.6%(29名)、再発が3.1%(1名)、不明が6.3%(2名)となっています。性的接触の内訳は、性交が62.1%(18名)、経口が10.3%(3名)、性交及び経口が20.7%(6名)、不明が6.9%(2名)で、異性間が75.9%(22名)、同性間が3.4%(1名)、不明が20.7%(6名)となっています。

